



2026 年 9 月 11 日

各 位

会社名 HUMAN MADE 株式会社
代表者名 代表取締役 CEO 松沼 礼
(コード番号：456A 東証グロース)
問合せ先 取締役 CFO 柳澤 純一
(TEL. 03-6823-7801)

株式会社アンダーカバーの株式取得（子会社化）に関する 株式譲渡契約締結のお知らせ

当社は、6 月 15 日付開示資料「株式会社アンダーカバーの株式取得に向けた 基本合意書締結に関するお知らせ」で、株式取得に向けた基本合意書を締結したことをお知らせしていましたが、2026 年 9 月 11 日開催の取締役会において、株式会社アンダーカバー（以下「アンダーカバー社」という。）の全株式を取得及び子会社化することについて決議しましたので、下記の通りお知らせします。

記

1. 株式取得の目的

当社は、「CULTIVATE CULTURE」というパーパスを掲げ、人間の閃きと、人の手が生み出すカルチャーの芽を、マンガ、アニメ、ゲームに続く日本を代表するクリエイティブ産業に育てていくことを目指しています。このパーパスの実現に向けた成長戦略の一つとして、ブランド資産の価値が十分に利益につながっていない企業を買収し、HUMAN MADE に続く、第二第三の柱として成長させていくことを方針として掲げています（ご参考「IP 戦略－ブランドポートフォリオ拡大」参照）。

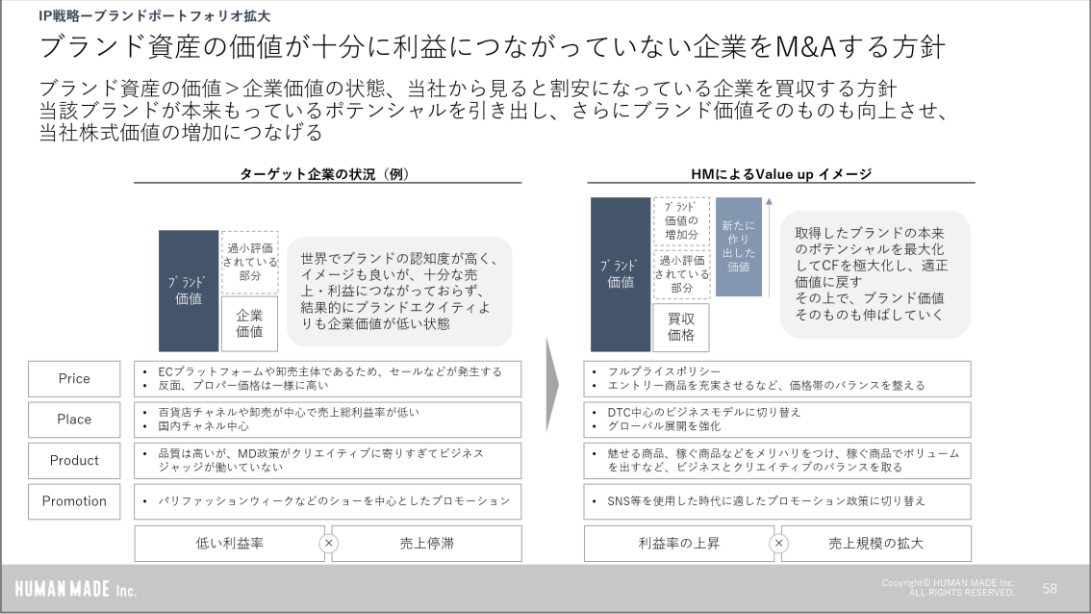
アンダーカバー社が運営するブランド UNDERCOVER は、ストリートとモードを融合した独自のポジションを確立し、30 年以上にわたり培われたブランドの歴史とともに、世界中で高い知名度を有するデザイナーズブランドです。

当社とアンダーカバー社は、2025 年にコラボレーションアイテム「HUMAN MADE × UNDERCOVER」を発売するなど、これまでも協業を通じて良好な関係を築いてきました。当社は、アンダーカバー社が有するブランド価値やクリエイティブに対する姿勢、カルチャーを起点とした事業づくりについて、当社のパーパスである「CULTIVATE CULTURE」および事業方針との高い親和性を有していると考えています。

なお、アンダーカバー社の代表取締役である高橋盾氏は、当社の大株主でありクリエイティブディレクターの NIGO®氏と 30 年以上の親交があり、ともに 1990 年代の裏原宿ストリートカルチャーの代表格として時代を席卷してきました。その後パリコレクションに進出を果たすことで世界的に認知され、今では日本を代表するデザイナーの一人として知られています。また、1993 年に両氏が共同で開業したショップ「NOWHERE（ノーウェア）」は、後のストリートカルチャーやファッションの礎となる、いわゆる“裏原ブーム”の象徴的存在となりました。同ムーブメントは、世界のファッション史においても重要な潮流の一つとして評価され、現在のラグジュアリーブランドや欧米をはじめとするグローバルなファッションシーンにも影響を与え続けています。

このような背景のもと、当社はアンダーカバー社をグループに加え、当社の保有する経営ケイパビリティを掛け合わせてビジネスモデルを変革し、同社のブランド価値、およびグループ全体の企業価値向上が期待できると判断し、株式譲渡契約を締結することを決議しました。

ご参考「IP 戦略ーブランドポートフォリオ拡大」
（「事業計画及び成長可能性に関する事項」より抜粋）



2. アンダーカバー社の概要

(1)	名称	株式会社アンダーカバー		
(2)	所在地	東京都渋谷区神宮前 4-23-16		
(3)	代表者の役職・指名	代表取締役 高橋 盾		
(4)	事業内容	紳士服、婦人服、アクセサリー等の企画、製造、販売		
(5)	資本金	12 百万円		
(6)	設立年月日	1994 年 9 月 1 日		
(7)	大株主	高橋 盾 80%、高橋 弘史 20%		
(8)	上場会社と当該会社との関係	資本関係	該当事項はありません	
		人的関係	該当事項はありません	
		取引関係	当社と営業上の取引があります。	
(9)	直近 3 年間の経営成績及び財政状況			
決算期		2024 年 6 月期	2025 年 6 月期	2026 年 6 月期
純資産		494 百万円	500 百万円	537 百万円
総資産		2,355 百万円	2,382 百万円	2,306 百万円
1 株当たり純資産		2,059,841 円	2,084,502 円	2,241,118 円
売上高		3,690 百万円	3,331 百万円	3,590 百万円
営業利益		127 百万円	33 百万円	65 百万円
経常利益		106 百万円	15 百万円	51 百万円
当期純利益		99 百万円	5 百万円	37 百万円
1 株当たり当期純利益		416,224 円	24,661 円	156,615 円
1 株当たり配当金		—	—	—

3. 株式譲渡契約先の概要

株式譲渡契約の相手先は上記大株主（個人）となります。
なお、当社と当該個人との間で記載すべき資本関係、人的関係、取引関係、その他特筆すべき関係はございません。

4. 取得株式数、取得価額及び取得前後の所有株式の状況

(1) 異動前の所有株式数	一株 (議決権の数：一個) (議決権所有割合：－％)
(2) 取得株式数	240 株 (議決権の数：240 個)
(3) 取得価格	株式会社アンダーカバーの普通株式 538 百万円 アドバイザー費用等 (概算額) 16 百万円 合計 (概算額) 554 百万円
(4) 移動後の所有株式数	240 株 (議決権の数：240 個) (議決権所有割合：100％)

5. 日程

- (1) 取締役会決議日 2026 年 9 月 11 日
- (2) 株式譲渡契約締結日 2026 年 9 月 11 日
- (3) 株式譲渡実行日 2027 年 2 月 (予定)

6. 今後の見通し

本件に伴い、アンダーカバー社は 2028 年 1 月期第 1 四半期より当社の連結子会社となる予定です。

また、本件が当社の 2027 年 1 月期の業績に与える影響は軽微であると見込んでいますが、中長期的には当社グループの連結業績の向上に資するものと考えています。今後、開示すべき事項が発生した際には、速やかにお知らせいたします。

以 上

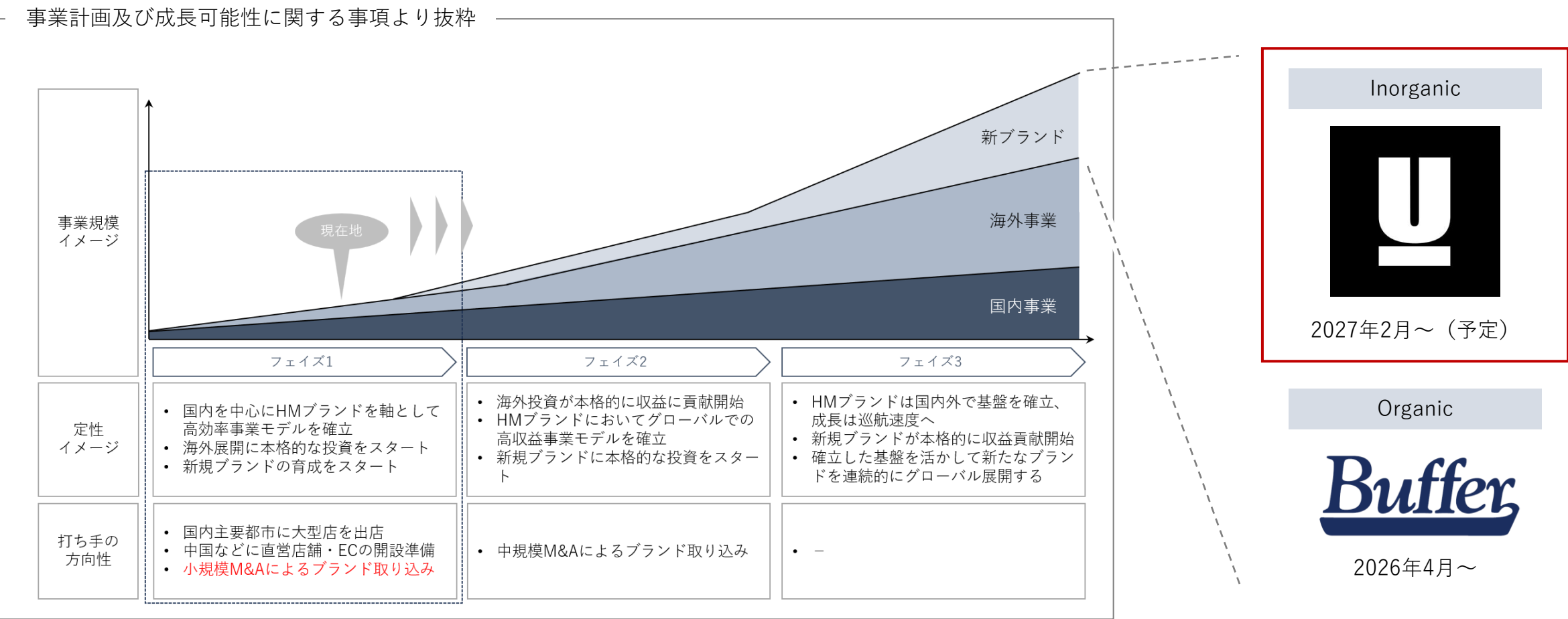
アンダーカバー社の株式取得に関する補足説明
2026.09.11

HUMAN MADE Inc.

© HUMAN MADE Inc. All rights reserved.

当社のミッション・ビジョン、成長戦略に沿った第1号案件という位置づけ

Inorganic Growthの打ち手として株式会社アンダーカバー（UC社）の株式を取得し、事業モデルを変革のうえ、グローバル展開を目指す
Organic Growthの打ち手として新ブランドBufferを立ち上げ済み、今後も継続的に事業機会を模索



*上記は当社の事業規模の中長期的な成長イメージを示したものであり、業績の具体的な数値の推移を保証するものではありません

ブランド概要

UNDERCOVERは、ストリートとモードを融合した独自のポジションを確立し、世界中で高い知名度を有するデザイナーズブランド

ブランド

UNDERCOVER[®]
JUN TAKAHASHI

1990年、デザイナーの高橋盾がスタートしたUNDERCOVER（アンダーカバー）は、ストリートファッションやアート、ミュージック、サブカルチャーなどの様々な要素をハイエンドファッションにまとめあげ、独自の世界観を持ったコレクションを展開している。
2002年より東京からパリへと発表の場を移す。

デザイナー

高橋 盾/たかはし じゅん

1969年、群馬県桐生市生まれ。
文化服装学院在学中の1990年にUNDERCOVERを設立。
1994年に東京コレクションでデビューし、
1997年に毎日ファッション大賞新人賞、
2001年には毎日ファッション大賞を受賞。
2002年にはパリファッションウィークでコレクションを発表し、
2009年には第76回ピッティ・イマージネ・ウオモに特別ゲストとして参加。
2013年には2度目の毎日ファッション大賞を受賞。
また、2019-20年秋冬のヴァレンティノ メンズ&ウィメンズコレクションのグラフィックデザインも手がける。
2024年5月には、UNDERCOVERの24春夏ウィメンズコレクションの作品が、メトロポリタン美術館コスチューム・インスティテュートの2024年展覧会に展示、メインビジュアルに採用される。



のれん計上見込み額は2~3億円前後であり、その償却費の業績影響は限定的

株式取得資金5.4億円は手元資金（2026年7月末で104億円）で十分に対応可能であり、ファイナンスは不要

当面はHM単体の事業成長の方が大きく、UC社の連結に占める売上等の比率は連結当初対比で低下していく見込み

会社概要

- 社名 株式会社アンダーカバー
- 代表 代表取締役 高橋 盾
- 設立日 1994年9月1日
- 資本金 12百万円
- 株主構成 高橋盾氏80%、高橋弘史氏20%
- 事業内容 紳士服、婦人服、アクセサリー等の企画、製造、販売

案件概要

- 取得価額 5.4億円
- 株式取得資金 手元資金
- 契約締結日 2026年9月11日（金）
- クロージング日 2027年2月予定

財務影響

	(百万円)	24/6期	25/6期	26/6期
UC社 PL/BS	純資産	494	500	537
	総資産	2,355	2,382	2,306
	売上高	3,690	3,331	3,590
	営業利益	127	33	65
	経常利益	106	15	51
	当期純利益	99	5	37
のれん	取得時の計上額は、2~3億円程度を想定*1			

*1: 現時点での試算値であり、今後変動する可能性があります

アンダーカバー社に対する現状認識

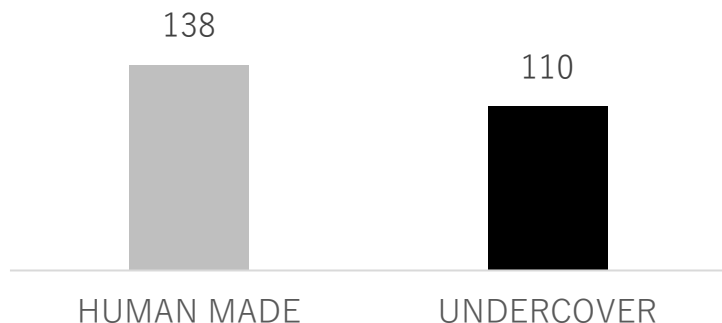
UNDERCOVERブランドは高い認知度を持つが、その強さが十分に売上・利益につながっていない

HUMAN MADEとの比較においても十分なブランド認知度を持っていると認識

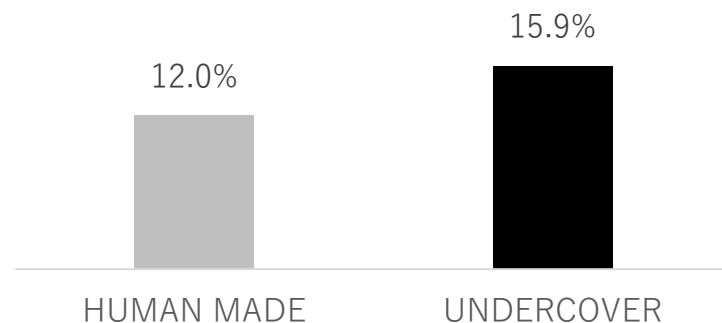
現状はその認知度や30年以上の歴史が売上・利益に十分反映しきれておらず、この課題を解決していく

認知度

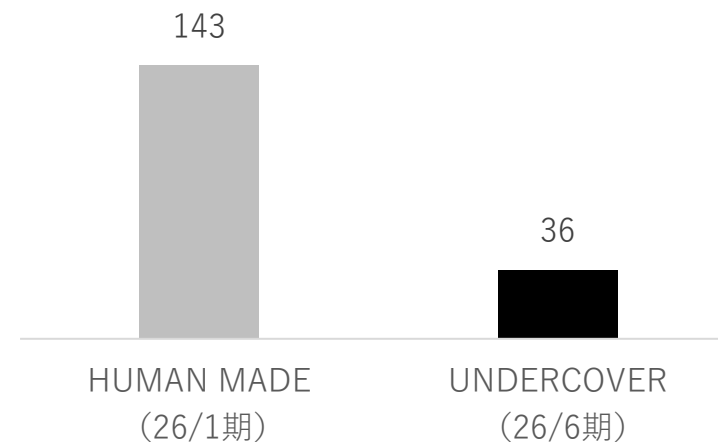
① Instagramフォロワー数（百万人、2026年8月末時点）



② 認知度調査結果 *1



売上高（億円）



認知と売上実績に
大きな乖離

成長ポテンシャル

*1: 認知度調査の概要：

2024年に調査会社に委託し定量アンケート調査を実施。日・中・韓・台・香・米・英の7か国の主要都市の20代・30代男女から、以下①②の条件で各国800人のサンプルを抽出

①ファッションに興味がある、②年間被服代が約10万円以上

株式取得後の経営体制

高橋盾氏は経営からは離れ、アンダーカバー社のヘッドデザイナーとして関与予定

経営は当社が行い、ビジネスモデルを変革しつつ、バックオフィス等の経営基盤は共有化

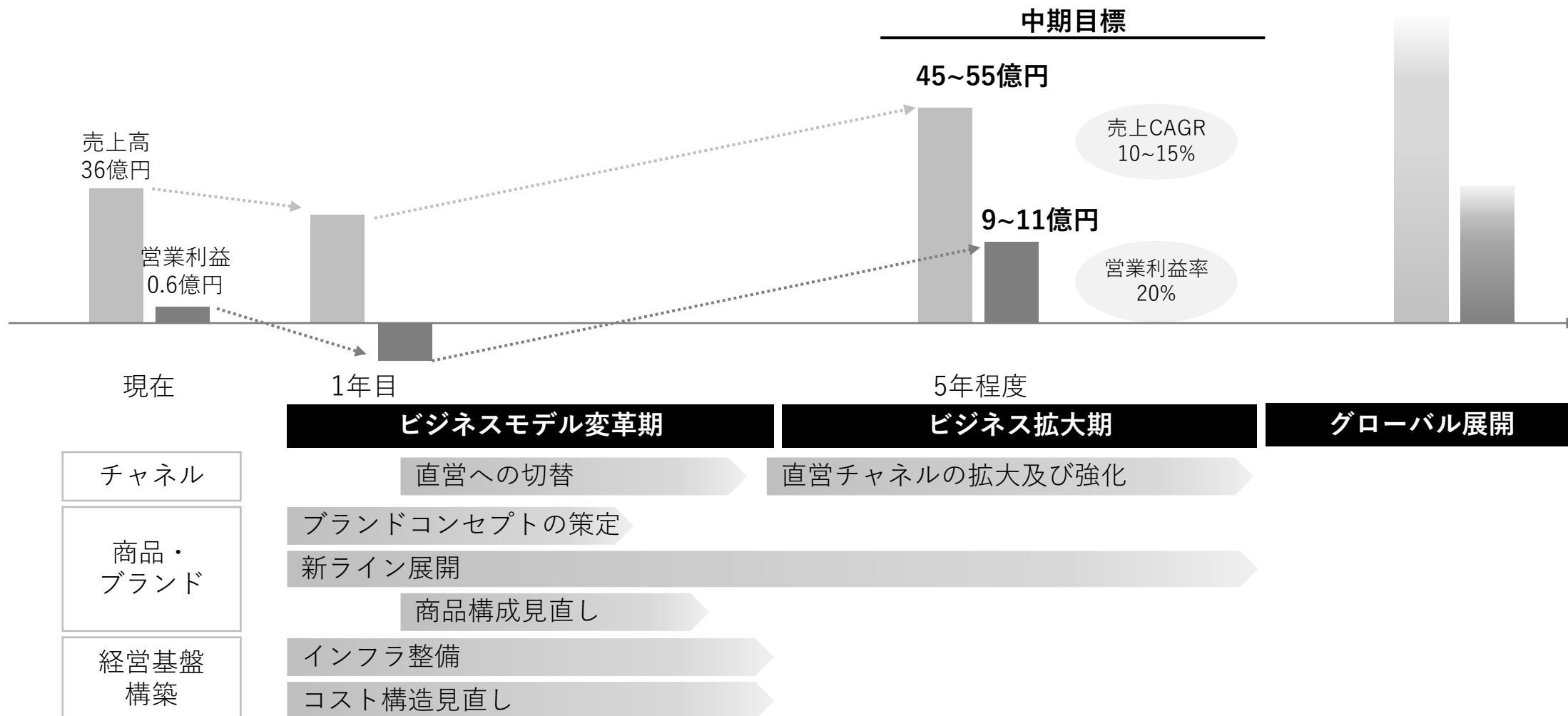
クリエイティブ面は引き続き高橋盾氏が担い、同時にデザインのIP化を進め持続的な成長に向けた経営体制構築を目指す



中長期目標

本格的な収益貢献は2~3年目以降を想定、長期的にはグローバル展開を目指す

1~2年掛けてビジネスモデルの変革を実行し、5年程度の中期では売上高50億円前後、営業利益率20%前後を目指す
事業構造の切り替えが計画通りにいけば、その後はグローバル展開により更なる成長を目指す



ブランドレガシーは活かしつつ、事業構造をつくり直して収益性を向上させる

現状のUC社は百貨店経由／卸売中心の売上構造になっており、ダイレクトチャネルに切り替え利益率を改善する
チャネルの見直しに合わせて商品構成やプロモーション政策もそのチャネルに適した構成に切り替える

	現状	今後の方向性
チャネル政策	- 店舗は国内百貨店中心に展開 - その他ECはモールに出店 - 海外向けは卸売で展開	- 店舗は直営店舗へ徐々に切替 - ECなども自社ECへ切替 - 海外向けの卸売は取引先の見直し
商品・ブランド政策	- 非常にデザイン性の高い（コストも高い）商品を多品番・少数で展開 - 同一ブランドで、価格帯やジャンルの異なる商品を制作し販売	<u>クリエイティブの良い面は変えない</u> - 反面、商品構成はチャネル政策の変更に合わせて変更 - 上記MD政策変更に合わせて価格帯やプロモーション政策も変更
経営基盤共有による効率化	人材採用・投資、IT投資、物流基盤整備、資金調達などを全て独力で行う必要があり、十分に実施できていない面もある	左記の経営基盤への投資・整備をHUMAN MADE Inc.として共有し、必要な投資を実行していく

全体として高成長・高収益・高効率構造が維持できるように投資対象を厳選

無軌道な規模拡大は追わず、中長期的なEPS、株主価値向上につながる案件のみに絞った投資を行う

本件は合理的な取得価額により失敗時の損失リスクを一定範囲内に限定しつつ、事業モデルの変革が計画通りに進めば大きな株主価値の向上をもたらすと判断して実行

投資対象	財務規律	ガバナンス
大きなリターンが見込める案件に限定 グローバルに通用するポテンシャルがあること 成長に向けた何らかの制約条件・課題（規模や組織、資金の限界、etc.）を抱えていること 当社が制約条件・課題の解決に寄与できること（＝当社と協業することで現状よりも大きく伸びる可能性があること）	- 適切な投資判定基準の設置 投資案件全般に対して、当社の想定資本コストを上回り適切と考えるIRR、ROICなどの投資基準を設定。 一方で、M&Aに特化した定量基準（EV/EBITDAマルチプルでX倍以内など）は非設定。投資対象の財務諸表がポテンシャルを反映していないことが多く、一律の制約を課すことで投資機会を逃すおそれがあるため - 事業計画に基づく投資採算評価 当社が経営を引き継いだ後の事業計画を策定し、そこから逆算して採算が取れる（前述のROICなどが基準を満たす）と判断した場合に案件を実行	- 会議体での審議 経営会議や取締役会において、多角的な視点で十分な議論を経て案件を実行（独立した投資委員会などは非設置） - 経験十分なメンバー構成 取締役・執行役員はM&A経験がある者が複数在籍。また担当チームはM&Aアドバイザー会社出身者、総合商社出身者、公認会計士、弁護士、MBAホルダーなど専門性の高い社員で構成 - 投資後のモニタリング 投資実行時に撤退基準を設定し、一定年数を経過した後にレビューを行い、目論見通りに推移していない場合は売却・撤退することも検討

当面の間、M&Aに伴うエクイティファイナンスは想定しない

本件は手元資金で対応可能な金額感だが、仮に今後のM&A案件の規模が拡大して資金調達が必要な場合、手元資金とデットファイナンスの組み合わせで行う方針

現状

- 自己資本比率と資産に占める現預金の比率が高い
- 財務は安定するが、資本コストの観点からは最適化の余地がある
- 現状は将来の成長投資に向けた余力を蓄えている状態と認識している

(BSイメージ図)

手元資金	負債
その他資産	資本

今後の方向性

- この投資余力を活かし、資金調達が必要な場合においてもデットファイナンスを中心に検討していく
- 規模が拡大し、CFの安定性が増していく中で自己資本比率を一定水準に落として資本コストを低下させていく

* なお、本件は手元資金で株式取得代金の全額を賄っている

(BSイメージ図)

手元資金	負債
その他資産	資本

ディスクレマー

本資料は、情報提供のみを目的としてHUMAN MADE株式会社（以下「当社」といいます）が作成したものです。

本資料に含まれる将来予想に関する記述は、当社の判断及び仮定並びに当社が現在利用可能な情報に基づくものです。将来予想に関する記述には、当社の事業計画、市場規模、競合状況、業界に関する情報及び成長余力等が含まれます。そのため、これらの将来予想に関する記述は、既知および未知のリスク、不確実性およびその他の要因に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。

これらリスクや不確実性には、国内および国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。